

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	環境バリアフリー小委員会	主 査 名：岩田三千子 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：岩田 利枝 主 査 名：中島 裕輔
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開の見学会などを企画して、設計事例の収集に努めるとともに、QOLや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握する。</li> <li>・ 委員の持つそれぞれの分野の研究成果について、委員会を4回開催して情報交換を行うとともに、HP 上において成果を発信する。</li> <li>・ 今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行う。また、それらの成果について、委員会や見学会を企画して継続的に情報交換を行い、知見を広める。</li> <li>・ 大会のオーガナイズドセッションにて、建築環境工学的視点のバリアフリーをテーマとしたセッションを開催し、この分野の議論を深める。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：岩田三千子 (摂南大学) 幹事：安部信行 (八戸工業大学)、延原理恵 (京都教育大学) 委員：土川忠浩 (兵庫県立大学)、堀越哲美 (愛知産業大学)、土田義郎 (金沢工業大学)、村上泰浩 (崇城大学)、二井るり子 (有限会社プラネットワーク)、田中直人 (島根大学)、宮本雅子 (滋賀県立大学)、三上功生 (日本大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	環境バリアフリー出版検討 WG：環境バリアフリー小委員会メンバー各人は、様々な建築環境工学的な研究成果を持っているが、実務者や学生に対してもっと分かりやすく発信する必要がある。そこで、そのことを目的とした出版について検討する。 環境バリアフリー・ホームページ WG：環境バリアフリー小委員会の活動や研究成果を、実務者や学生、および広く一般に対してもっと分かりやすく発信する必要がある。そこで、そのことを目的としたホームページのあり方や内容、更新について検討し、運営・管理を行う。	
2018 年度予算	181,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 建築学会計画系の研究者と連携し情報交換を通して、来年度大会におけるOSにて、環境バリアフリー関連のセッションを企画した。</p> <p>2. 環境バリアフリー出版検討WGでは、メンバー各自が研究活動を行い、それらの成果について、出版検討に向けた活動を行い、情報交換の場として共有することができた。</p> <p>3. 環境バリアフリー・ホームページWGでは、コンテンツに関してあるいはホームページのあり方について、メンバー各自がさらなる研究活動を行い、それらの成果について小委員会のホームページを整備した上で、情報交換の場として共有することができた。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 環境バリアフリー小委員会は今年度で終了し、その最終企画として、2019年度大会において、OSを担当する。活発な意見交換の場になることを期待する。</p> <p>2. 来年度、環境バリアフリー・ユニバーサルデザイン小委員会が活動を開始し、委員の多くがその小委員会の委員に就任する予定である。新たなテーマを見つけて活動することが期待できる。</p>

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2018年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本小委員会は、設計事例の収集に努めるとともに、QOLや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握することを目標として活動を進めてきた。</p> <p>建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザインについての研究者とも連携し、情報交換を行い、今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行うことが目的の一つであったが、委員会で情報を共有し研究活動を進めてきた。そして、環境バリアフリー出版検討WGと環境バリアフリー・ホームページWGを設置することによって、出版の検討を行い、ホームページのコンテンツを充実させることによって、光、音、温熱、空気環境など、環境バリアフリーに関する情報提供の場として情報を外部に対しても発信できるように整備を進めることができ、目的は達成されつつある。また、それらの成果について、アカデミックスタンダードとして発信する準備を進めることができた。</p> <p>また、来年度大会におけるオーガナイズドセッションにて、建築計画の研究者とも連携した環境バリアフリー関連のセッションを計画することができたことも評価できる内容の一つである。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。